

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="radio"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="radio"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="radio"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<input type="radio"/>	今後も、家族会で理念について理解を得ることが出来るように分かり易く説明をしたり、毎月1回発行しているホーム便りに理念を掲載したり、運営推進会議にて地域住民代表者や市地域包括支援センター担当職員に提示して、理解を促すよう取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="radio"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="radio"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	利用者への介護サービス提供という支援には職員全員で日々努力しているが、地域の高齢者等の暮らしに対する支援が出来ないかを職員間で話し合うなど、サービスの質を向上させようという意識が浸透してきている。	○	これから運営推進会議やスタッフ学習会にて積極的に検討し合いながら、地域の高齢者が自立して、在宅で生活が出来るための支援に意欲的に取り組んで行きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月の学習会で、自己評価及び外部評価を実施する目的や意義、評価内容を理解し、具体的な改善策を話し合い実行している。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず開催する運営推進会議で、毎月の行事や提供サービスの内容等を報告・討議し、導き出された意見を、日常のサービス向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に開催する運営推進会議以外にも今後は市の地域包括支援センターとの連絡、意見や情報交換を行うなどの機会を増やし、事業所全体の質の向上を図りたいという意識は強く持っている。	○	今後は、市の担当者と連絡や情報交換を図っていくことの出来る機会を増やして、利用者への介護サービスの質の向上に取り組んで行きたい。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフ学習会や研修への参加により制度や活用方法の理解を深めており、利用者個々への必要性を検討している。		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スタッフ学習会や研修への参加により理解を深めており、事業所内では利用者の表情や言動を注意深く観察とともに、入浴時やトイレ介助時などに身体チェックを行っている。他、言葉使いにも十分気をつけ、利用者的人格・尊厳に配慮している。外出・外泊後も同様の対応をとっており、身体・精神的虐待防止を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約・解約時は利用者と家族に面談する場を必ず設けて、訴えを傾聴して不安などの解消に努めている。入居案内や契約書・重要事項説明書を用いて説明を行って、十分な理解を得るようにしているとともに、退居後についても納得できる対応を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>スタッフが利用者の訴えを常に傾聴するよう心がけており、いつでも意見や不満、苦情を管理者やスタッフに気軽に話せる雰囲気を心がけており、苦情を受けた時は記録に残して、毎日のミーティングや学習会などでスタッフ全員で反省し合い、運営に活かすようにしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に1回行う家族会にて、家族が訪問される機会を利用し日頃から利用者の毎日の生活の様子や健康状態を報告したり、新人職員の紹介などを行っている。また、個人の状況に応じて電話や面会時に随時報告を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームの玄関口に意見箱を設置して、いつでも意見や不満、苦情を管理者やスタッフに表せるようにしている。また重要事項説明書に県や市の担当連絡先を記載している。苦情解決マニュアルを作成しており、迅速かつ的確に対応できるようにしている。苦情を受けた時は記録に残して、毎朝のミーティングや学習会などでスタッフ全員で反省し合い、運営に活かすようにしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>事業所学習会にて、スタッフ全員が意見や提案を述べやすい雰囲気作りを心がけ、積極的に発表してもらっている。内容は会議録に残して、運営やサービスに反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>急な病院受診や家族会等の行事や運営推進会議、その他利用者の状況に応じたり、スタッフが必要な時は、勤務を調整するようにしており、そのための話し合いも行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族の混乱を避けるため、異動は必要最小限に抑えるようにし、またスタッフが離職しないような働きやすい環境作りに努めている。止むを得ず代わる場合は利用者や家族に説明を行っている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集・採用時は性別や年齢などの理由のみで採否を決めず、応募者の熱意や人間性、適性を最重視した採用を行っている。また実際に働いている職員についても、個々の能力や適性・職種に応じて意欲を持って働くことが出来るように配慮しており、研修参加や資格取得のためのバックアップ、自分の意見を自由に述べられる雰囲気作りを行っている。		
20 ○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所の今年度の目標として利用者の人権の尊厳をかけしており、日常での態度や言葉使いに注意を払うように指導している。学習会でもそれを周知している。		
21 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間事業計画を立てて、施設目標に沿って、各個人目標を立て、それを実践し評価している。法人内の交歓研修や介護技術研修などへの参加を積極的に勧めたり、日々目標を持って業務に取り組むよう促している。		
22 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日頃から、同業者との交流を図ることの出来る機会を設けようと検討をしている。法人内全体で活用している目標チャレンジシートにも、部門・個人目標として地域内の他事業所への訪問、関連してネットワーク・交流作りをあげており、目標を達成しようと努力している姿勢がうかがえる。	○	これからは地域内の他グループホームや福祉関連施設等とのネットワーク形成や相互訪問、勉強会などをいながら、サービスの質の向上に対する意識を高めていくことが出来るよう、積極的に交流を図っていきたい。
23 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に管理者や職員との面談を行い、運営に対する意見などを聞いて自己実現できる機会を設けている。また定期的に職員互助会の行事を行って心身ともにリフレッシュ出来るよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働くように努めている	管理者や職員個々が、日頃の業務において生み出した成果を公平に評価したり、個人目標(チャレンジシート)を活用した人事考課制度を取り入れている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の訴えを傾聴することを心がけており、何を望んでいるのか、何が不安なのかをじっくりと聞く姿勢を大事にして、否定せずに受容することを第一に考えた信頼関係作りを念頭に置いている。		
26 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聞く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居申し込みに対しては、利用者や家族の意向・希望・不安な点など聴取し、施設のほうからは理念・運営方針・重要事項説明書等を説明、利用者や家族の思いに添えるという姿勢で信頼関係を築いている。		
27 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接においては信頼関係の構築に努めるうえで、第1に必要なサービスは何かを本人・家族の意見を聞きながら検討していく、状況に応じて併設の特別養護老人ホーム・訪問介護・通所介護サービスの利用も検討しながら、より良い支援が提供出来るよう心がけている。		
28 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族から相談があった時は最初にホームの見学を勧め、居室やお手洗い、浴室、居間、ベランダなど全ての生活空間を実際に見ていただき、利用に納得したうえで入居手続きをとって頂くようにしている。入居後も職員が本人に積極的に声かけを行い、他の利用者や職員、ホームの雰囲気に馴染むことが出来るように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の希望や自立を支援するサービスの提供に努めている。1日の生活を共にしながら、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを常に持ち、利用者の話を聞くことから始め、安心と安全を認識してもらうことでお互いの気持ちが通じ合い、信頼関係を構築している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や定期的に行う家族会で本人・家族のニーズ把握に努め、一方的な支援にならないよう心がけている。本人・家族と共に楽しみや悲しみを共有し合いながら本人を支援していくことが出来る関係作りを大切にしている。		
31 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	プライバシーに配慮しながら、本人の生活歴や在宅時の家族との関係について理解できるよう心がけ、個別ケア提供の実現を図りながら、より良い関係が継続出来るよう支援している。		
32 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日課となっている散歩や苑外レクリエーションを通じて、各利用者が住み慣れていた地域の友人や親類、場所を訪問して関係が継続出来るよう支援している。また家族に働きかけ、施設への訪問を依頼している。		
33 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活において職員が利用者同士の関係を理解して、仲の良い利用者同士が隣の席に座って頂けるよう配慮したり、接点の少ない利用者同士に対しては、職員が中に入り共通の話題を提供することで、利用者同士がお互いを理解できるよう心がけている。		
34 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も必要に応じて連絡を取り、他の在宅・施設サービスを紹介したり、本人や家族の相談にのることで、不安な気持ちを解消出来るように努めている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が隨時声かけを行いながら、利用者個々の様々なニーズの把握に努めている。困難な場合には、利用者本位のサービス提供が行えるように検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら、利用者個々の生活歴や馴染みの人・場所の把握に努めている。また、本人・家族との面談時に今まで利用してきたサービスの種類や頻度・結果などのについて良く話を聴き、理解するよう心がけている。		
37 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者個々の1日の過ごされ方や心身状態を具体的にケース記録や連絡ノートに記し、職員全員が必ず目を通すようにしている。また、料理の下準備や掃除、洗濯物たたみ、草取りなど、利用者個々の身体状況に応じて出来ることを見極めながら手伝っていただき、現状を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスを定期的に開催して、利用者個々の課題とケアのあり方について検討を行っている。また本人・家族・主治医と話し合い、ニーズや意見を汲み取り、同意を得たうえで利用者本位の介護計画を作成しており、チーム全体でのケアを心がけている。		
39 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人・家族・必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っている。計画期間中に状態に変化が起きて計画を変更する必要性がある場合は、本人・家族・関係者やスタッフと話し合い、同意を得て新たな介護計画を作成している。		
40 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の1日の生活の様子や提供した介護ケアの内容・結果、それに対して気付いた事等を個別ケース記録に記入して、毎朝の申し送りやカンファレンスにて確実に職員間で伝達し、より良いケアの実践・介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常のコミュニケーションや職員カンファレンス、面会時などを通じて、本人や家族のおかれている状況やニーズを随時把握するよう努め、地域密着型サービスの利点を活かした柔軟な支援に結び付けていくように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に開催する運営推進会議にて民生委員に参加していただいたり、消防署職員立会いの下で避難訓練を行って、各機関と協力しながら利用者へ支援している。	
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設の特養・居宅・通所などと話し合いを持ち、情報交換しながら、利用者が求めているサービスや必要なサービスの提供が出来るよう行っている。	
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に開催する運営推進会議にて地域包括支援センターの担当職員に参加していただき、助言を受けながら日常の支援に活かしている。権利擁護事業や総合的かつ長期的なケアマネジメント等についても情報交換や今後の介護サービス計画について助言などをおりこむ計画を立てており、協働していくことが出来るように努めていきたい。	○ 今後は利用者個々の意向や必要性に応じて、地域包括支援センターの担当者と連絡や情報交換を図り、左記の内容について協働して取り組んでいけるようにしたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の希望を聴き、同意・納得が得られたかかりつけ医と信頼関係を築くことが出来るよう留意しながら、本人の身体状況に応じた適切な受診介助にて、いつまでも健康で過ごして頂けるよう支援している。	
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	当ホームの近くにある、認知症に詳しい医師と利用者の状態について連絡を取り合いながら、受診介助時に職員が相談したりして適切な診断や治療を受けられるよう支援している。	
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当ホームの近くにある、かかりつけの医療機関の看護師や併設の特別養護老人ホームの看護師と連絡を取りながら、受診・受薬介助を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された時は職員が面会に行き、不安感が軽減するように努めている。そしてなるべく早く退院出来るように、主治医や看護師、医療ソーシャルワーカーなどと情報交換や相談を行うようにしており、日頃からも連携を取るようにしている。		
49 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期を迎えた時も、その人らしい最期を過ごすことが出来るよう、早期の段階から利用者本人や家族、かかりつけ医等と今後のケアの方針について納得がいくまで話し合って、チーム全員で共有出来るよう努めている。		
50 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	毎朝のミーティングや定期的・随時行うカンファレンスにて、当ホームで出来ること・出来ないことを明確にしながら、かかりつけ医への状態報告を通じてチームとしての支援を心がけ、また今後に備えカンファレンスにて支援方法の検討や準備をしている。		
51 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者本人が別の居所へ移る時は、本人や家族から同意を得た上で必要な情報を関係者に提供したり面談を行って、スムーズに新しい環境でその人らしく生活できるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する人格の尊重を根源に、常に對等な立場で傾聴する姿勢を心がけ、記録等の個人情報の保護について十分理解しており、遺漏のないよう全職員で徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者個々のコミュニケーション能力を把握して、それに応じた個別ケアの提供により本人が意思や希望を表しやすく、満足した自己決定が出来るよう支援している。		
54 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースを尊重して、ゆったりとした雰囲気の中、その日をどのように過ごしたいのかといった希望に沿えるような支援を心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝は洗面・整容介助を欠かさず行い、更衣時も本人が着たい洋服を着ていただくようになっている。理容・美容も本人が行きたいと言う店がある場合は、家族とも相談し希望をかなえている。他は月1回理容師が来園して、カットなど個別に対応している。		
56 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを聴いて献立を決めたり、利用者一人ひとりの能力に応じてもやしの芽摘みや生姜すり、皮むきなどを手伝っていただいている。食事も職員が利用者と一緒に食事を摂るようにしているが、食事時は静かに食べたいと言われる利用者が多いので必要以上に話しかけないよう配慮している。他には引き膳・テーブル拭きをして頂いている。		
57 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者一人ひとりに好きな食べ物や飲み物、おやつを聴き、希望に添えるよう配慮しているが、栄養バランスも考えながら毎日の献立決めを行っている。		
58 ○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりのADLを把握して、個々の排泄パターンに応じて声掛け・トイレ介助を行い、排泄の失敗がないよう、また安易なオムツの使用をせずに、安心して排泄が出来るように職員全員で取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	大まかな曜日や時間帯は決めているが、利用者一人ひとりの希望や体調に合わせながら入浴日や時間、入る順番を決めて、利用者が気持ちよく安心して入浴出来るように支援している。		
60 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者個々の生活習慣やその日の体調を把握・観察して、休息が必要と考えられる時は自室にて静かに安心して横になって頂いたり、夜間も静かな環境作りを心がけて、安眠出来る様に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中で、本人が得意とすることや興味を持っていること、出来ること(朝の雑巾がけ掃除や料理の下ごしらえ、洗濯物干しやたたみ、畠仕事や花の手入れ)を見出しながら負担にならない範囲で手伝って頂いて、役割や楽しみの支援を行っている。		
62 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理が出来る方は全て本人に任せている。その他の方は施設管理として、必要な時には本人に渡して、自由に買い物や理容代などに使っていただいている。		
63 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を聴きながら散歩に出掛けたり、ドライブに行ったり買い物に同伴したりと、なるべく戸外に出掛けるように努めている。また、季節を感じられる行事や風景を見物に行っている。		
64 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないとこに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の家族が入院している病院への面会や買い物、美術館見学など、状況に応じて家族の協力を得ながら外出支援と、定期的な園外レクリエーションを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望された場合は、施設の電話機の子機を居室を持って行き、気兼ねなく話が出来るよう心がけている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問(面会)時間を9時から20時と長く設けている。また利用者と訪問者が談笑されている時は、職員は必要以上に話しかけたりしないように留意しており、ゆっくりと落ち着いて話すことが出来るような環境作りに努めている。また、何度も気軽に訪問が出来るよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員がきちんと理解出来ており、日頃から身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄間に鍵をかけることが拘束や心理的圧迫に繋がることからも、日中は鍵はかけていない。万が一の事故に備えて玄間にセンサーを取り付けており、事故防止に努めている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者本人の生活リズムに必要以上に干渉しないよう留意しながら、常に利用者の所在は確認している。また表情や言動をきちんと観察して、利用者が安全に生活出来るよう配慮している。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者個々の理解度や能力に応じて保管・管理が必要な物品を決めている。必要な場合は注意の要る物品を扱う時に職員が付き添って、事故などが起きないよう取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成しており、職員全員が事故防止のための知識の習得に努め、利用者一人ひとりのADLに応じて事故を防ぐことが出来るように心がけている。		
72 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に一度、法人内全体で消防署職員立会いの下で救急救命講習を行っており、ホームの職員も全員参加して、AEDの使い方や人工呼吸・心臓マッサージのやり方を学び、急変や事故発生時に備えている。また、併設の特養看護師から医療知識の修得を行っている。		
73 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署職員立会いの下で定期的に避難訓練を行っており、災害発生時には利用者が安全に避難出来るよう、消火器や通報装置の設置場所、誘導・避難経路・場所を把握している。また災害時に地域の人々の協力を得られるように働きかけている。また、毎月の学習会で災害時に速やかに対応出来るよう研修を行っている。		
74 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	初回の契約時や入居後の面会・家族会などにおいて、家族に日常の家庭生活で起こるリスク以外に利用者個々人のリスクについて説明し、必要以上に拘束することなく利用者が安心して暮らせるよう、対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや体重測定、食事の摂取量や排泄の回数などを記録しながら一人ひとりの状態変化の早期発見に努め、変化に気付いた時は適切な介護の提供や家族への報告・病院受診介助といった対応に結び付けているとともに、全職員に周知徹底している。		
76 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、一人ひとりが服用している薬の内容について、薬の手帳や個人ファイルの記録を見て理解しており、必要に応じて服薬介助・管理・受薬支援、症状の変化の確認も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃から野菜や食物繊維の多い食材を料理に用いるようにしたり、水分補給に低脂肪牛乳などを使用している。他、腹部マッサージやラジオ体操・散歩など運動する機会を設けて便秘の予防に取り組んでおり、便秘症状になってしまっても安易に下剤に頼らないように努めている。		
78 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きやうがい・義歯の洗浄を一人ひとりの口腔状態やADLに応じたケアを行い、虫歯や歯槽膿漏などの疾病を未然に防ぐよう心がけている。		
79 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの日頃の運動量や身体状況を考えながら摂取量を決め、栄養バランスの取れた食事を提供している。水分補給も起床後や入浴後・外出後は必ず補給したり、気温の高い季節は多めの補給を心がけている。		
80 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	各感染症に関する感染症マニュアル情報をもとに、予防策を職員全員で実行している。		
81 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理の際はまず職員が手指を洗浄・消毒して、台所や調理用具も除菌剤を使用して清潔に保っている。食材もまとめ買いし過ぎないよう気をつけ、調理時は十分に加熱していくつも新鮮で安全な食材を使用出来るよう管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
82 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	駐車場の入り口に看板を立てて、訪問者がホームの所在を分かりやすいようにしている。入り口は玄関のほかに駐車場から入りやすいよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は扉やカーテンを適宜利用しながら不快な音や光がないように留意している。また、自宅での生活をイメージした椅子やテーブル・掛け時計を置いたり、季節に応じた絵などを掛けることによって居心地良く過ごせるような工夫をしている。		
84 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはゆったりと座れるソファーを置いて、独りで落ち着いて過ごすことが出来るように工夫したり、気の合った利用者同士が居間で同じテーブルに座っていただけるようにするなど、思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている。		
85 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族と相談しながら、本人が好きなものや使い慣れたもの、思い出のある家具や寝具、写真などを置くなど、本人が家庭的な雰囲気の中で居心地良く過ごせるよう工夫をしている。日差しが強い時もカーテンを利用するなど配慮している。		
86 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に行き、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに換気を行い新鮮な空気を取り込むように配慮している。温度調節は居間に温度・湿度計を置いて、外気温と大きな差が出ないように温度調節を行って、利用者の状況に応じた室内温度になるように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリー設計となっており、廊下やトイレ・浴室には手すりを設置したり、段差を解消しており、転倒などの事故防止を図りながら利用者が安全に自立した生活を過ごせるよう配慮している。		
88 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人ひとりの理解力に応じて、分かりやすいようにゆっくりと丁寧に声かけするなど職員全員で実践することで、混乱や失敗のない自立した生活を送ることが出来るように努めている。		
89 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に畑を作り、利用者と職員が一緒になって種まきや水やりを楽しんだり、飼い犬と一緒にえさをあげたりしている。ベランダはスペースを広く取っており、利用者が洗濯物を干したり取り込んだりして、活気ある日常生活が送れるように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にやつたりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
96	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
100	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の理念や運営方針に基づき、利用者主体・人格尊重・自立支援を念頭に、自宅と同じように家庭的で落ち着いた雰囲気のなかで、ゆったりと生活出来るように心がけています。職員は優しい話し方・態度で接し、笑顔を絶やさず、必要以上に手を出さないといった介護サービスの提供を実践しています。利用者が自分で出来ることや興味のあることなど、個々の能力に応じた役割を持ってもらうことで生活の質の向上を図り、自立支援の実現を目指しています。